

## 第41回工大祭「NEXT」開催 第31回北海道科学大学との定期戦 開催



北海道科学大学との定期戦：ハンドボール試合でのシュートの瞬間

# 第41回 工大祭

日時：平成28年10月15日(土)・16日(日)  
会場：八木山キャンパス

平成28年の工大祭のテーマは「NEXT」。昨年続き、次の世代につながる大学祭の進化・飛躍をめざし、さまざまな企画を準備しました。「新しい感動を東北工業大学から発信する」というコンセプトのおおかげ、当日は4,200名を超える来場者の皆さまに、多くの感動と笑顔をお届けすることができました。

# NEXT



## 第41回 工大祭「NEXT」について (報告)

もりた けんいち  
**森田 健一**

学生委員会副委員長  
ウェルネスセンター カウンセラー 准教授

清々しい秋晴れに包まれた第41回工大祭は、新たな「相棒」となった地下鉄東西線や魅力的なゲストの方の熱烈な力添えもあり、盛況に終えることができました。

過去40回の伝統を持つ工大祭ですが、「伝統」とは自信や誇りの力強い支えになる一方、新たに道を拓くには、ときに重圧としてのしにかかることもあるものです。今年の「NEXT」というテーマにはその両面が背景に感じられますが、来場された皆さんの様子を見ていると、そうした中での実行委員学生の努力が報われたように思われました。本当にお疲れさまでした。最後になりましたが、日頃ご支援いただいている皆さまに改めて感謝申し上げますとともに、さらなる「次」へお付き合いいただきたくお願い申し上げます。



## 第41回 工大祭「NEXT」を振り返って

すずき せいや  
**鈴木 誠司**

大学祭実行委員長  
経営コミュニケーション学科 3年

第41回工大祭は昨年の工大祭を越えようと「NEXT」というテーマで1年間活動してきました。今年も多くの新しい試みを行いました。昨年からの企画である「ご当地グルメフェスティバル」や「工大ふれあい博」もパワーアップしました。ステージの司会にはお笑い芸人を招き、他大学の団体の出演や2日間のゲストライブと、お祭りにふさわしい賑わいとなりました。

2日間の総来場者数も昨年を大幅に上回る4,200名の方にお越しいただくことができました。「NEXT」というテーマの通り飛躍を果たすことができたと思います。今年の工大祭は通過点として来年以降もさらなる飛躍を遂げていけると期待しています。

最後になりますが、天候にも恵まれ大成功で終えることができましたこと、ご協力・ご支援いただきました皆さまに実行委員会一同、心より感謝申し上げます。

広報・ご当地グルメ  
フェスティバル

副委員長 **齋藤 翔太**  
 建築学科 3年  
 副委員長 **佐藤 みなみ**  
 環境エネルギー学科 3年



今年の広報企画は尚絅学院大学・仙台白百合女子大学と連携し「お山の上の大学祭」という企画を実施しました。他にも「仙台ノ学園」や「OH!ハンデス」などのテレビ出演による広報を行いました。大学祭を盛り上げるため、ご当地グルメ企画・ゆるキャラを招致し、幅広い年代の方を呼ぶことができたと思います。

幼稚園企画

幼稚園企画長 **村山 早紀**  
 建築学科 3年



今年は「すまいるぱーく」という企画テーマのもと、子供たちに笑顔で楽しんでもらえました。作品展示では、ますみ幼稚園、茂庭幼稚園、ゆりかご幼稚園、袋原あおぞら保育園にご協力いただき、心より感謝申し上げます。今年の経験を踏まえ、来年は今年以上に多くの子供たちが来てくれることを期待しています。

スポーツ企画

スポーツ企画長 **中根 大樹**  
 情報通信工学科 2年



昨年同様に、運動祭・スポーツ大会は多くの学生や教職員の方に参加していただいたおかげで大変な盛り上がりを見せ、無事成功を収めることができました。来年度は今年出た問題点を改善し、参加者数をさらに増やして、よりよい運動祭・スポーツ大会を目指して頑張りたいと思います。たくさんのご参加ありがとうございました。

祭飾企画

祭飾企画長 **大友 ほのか**  
 建築学科 3年



祭飾企画では会場内に設置する看板や、正門に設置した門の製作を行いました。いくつかの看板と門は今年度のポスターのデザインと似せることで、統一性を持たせ今回の工大祭へのイメージをしやすくしようと思いデザインを考えました。製作するものが多くあったなか、祭飾企画担当全員で役割分担をして作業することができました。

コンサート企画

コンサート企画長 **末永 翔悟**  
 都市マネジメント学科 2年



コンサート企画は、ゲストライブの運営とテント借用と設置を行いました。テントは配置にこだわり、屋台とステージが一体となるよう設置しました。ゲストライブについても、今年は二日間に分けてエハラマサヒロ・パンサー・藤原さくらなど著名なゲストを迎え、賑やかなものとなりました。来年もさらに集客を伸ばすため、来場者が喜ぶゲストを選考していきたいと考えています。

パンフレット企画

パンフレット企画長 **高須 未来**  
 安全安心生活デザイン学科 3年



第41回工大祭のパンフレット、ポスターの制作を行いました。こうして無事に制作を終えることができたのは、企業の方や職員、学生の皆さん、大学祭実行委員会メンバーの協力のおかげです。本当にありがとうございました。今年の反省点を踏まえ、来年はより良いものを作り上げてもらいたいです。

ステージ企画

ステージ企画長 **大場 遼太**  
 経営コミュニケーション学科 3年



今年の野外ステージの目玉として、1日目に「お笑い芸人のライブ」や「パフォーマーKERA氏によるパフォーマンス」そして「ビンゴ大会」、2日目に他大学のサークルを招いて、「インカレフェスタ」を行いました。特にインカレフェスタは、初の試みで不安もありましたが、他大学のサークル代表の方と、上手く連携できたことにより、無事成功を収めました。来年度も大学祭が成功することを願い、部署の後輩に期待したいと思います。

一般企画

一般企画長 **片岡 拓磨**  
 経営コミュニケーション学科 3年



今年は来場者数が4,000名を超えるなど、会場が例年以上の盛り上がりを見せることができました。また、今年もセグウェイやドロローンなどの企画を取り入れ、工大らしさも見せることができました。大きなトラブルもなく終わることができたので、来年は今回の反省点も踏まえて、より良い工大祭を作り上げて欲しいと思います。

工学部  
知能エレクトロニクス学科

知能エレクトロニクス学科では、昨年度に引き続き研究室からの屋台出展の他、学科テクノ



フォーラムと体験型企画を開催しました。テクノフォーラムでは、7名の教員と3名の大学院生が現代の生活に欠かせない最新のテクノロジーを紹介しました。屋台企画では来場者の興味を引きつけようと、メニュー、演出ともに学生らしい趣向がみられ、来場者にも大変好評でした。新学科名称で迎える来年度の学科企画もご期待ください。

工学部  
都市マネジメント学科

本学科の専門分野に関する内容として、昨年12月に開業した仙台市地下鉄東西線の計画から施工、管理に至る技術、および防災・減災の調査や技術についてパネル展示と、数キロプログラムもの荷重に耐えられる紙製の橋を作る体験コーナー（ふれあい博）を実施し、多くのご来場者にご好評をいただきました。また、本学科3年生を中心とした学生チームによって本学科伝統のクレープ屋台を開き、多くのお客さまに楽しんでいただきました。



ライフデザイン学部  
安全安心生活デザイン学科

本学科では、地域資源である雄勝石を使った小物づくりの体験コーナーを開設し、学科と結



びつきの深い宮城県内各地の物産を集めた、復興支援市を開催しました。体験コーナーでは、小さなお子さまから大人の方まで、自分だけの作品づくりに熱中されていました。また、1日目には、熊本県伝統工芸館の佐藤伸之館長をお招きし、熊本の被災状況や復興の様子についてご講演いただき、学長をはじめ多くの方が熱心に聴講されていました。

工学部  
情報通信工学科

情報通信工学科では、9号館ふれあい博で学科紹介およびインターネットラジコンの実演、5号館



ITシステムラボラトリーでネットワークセキュリティや、光通信に関する実験設備の公開を行い、学生が来場者に自分たちの学ぶ、情報通信技術の紹介を行いました。またLED回路を使った電子玩具やインターネットケーブルの製作体験にも、多くの方にご参加いただき、情報通信技術を身近に感じていただくことができました。

工学部  
環境エネルギー学科

環境エネルギー学科では、丸尾容子研究室と田倉哲也研究室の研究に関係する体験企画、毎年恒例のセグウェイ試乗会とソーラークッカー屋台を開催しました。体験企画には環境エネルギー学科に興味を持っている高校生や保護者の方に足を運んでいただきました。セグウェイ試乗会は昨年よりも盛況で、450名超の方に試乗していただきました。ソーラークッカー屋台も天気に恵まれ、肉まんや焼き鳥などを多くの方に提供することができました。



ライフデザイン学部  
経営コミュニケーション学科

経営コミュニケーション学科では、914教室で「工大生からみる経営コミュニケーション学」というテーマでプレゼンテーションを行いました。学生目線で語られた本学科の魅力について、高校生は熱心に聞き入っていました。また「深めよう、異文化理解とコミュニケーション！」というテーマのプレゼンテーションには、本学の学生だけでなく台湾の留学生も参加しました。子どもから大人までたくさんの方が来場し、意義深いコミュニケーションの場となりました。



工学部  
建築学科

工大祭の2日間、若手気鋭2名の建築家によるレクチャー＆ワークショップを開催しました。1日目の講師は辻琢磨氏。地域資源を生かしたデザインの可能性についてお話いただき、ワークショップでは「colorsの次の企画を考える」というテーマで、イベント企画をグループワークで討議し発表を行いました。2日目の講師は西田司氏。公共性とは何かを問い直すレクチャーをしていただき、ワークショップでは、新しい公共空間の提案をグループで行いました。受講者は、高校生と大学院生の42名で、2日間とも、会場内は充実感に満ち溢れていました。



ライフデザイン学部  
クリエイティブデザイン学科

学生によるデザインの完成度の高さに、多くのお客さまからたくさんの感嘆の声をいただきました。「仙台手ぬぐい物語」では、地下鉄東西線の各駅をモチーフにした型染めと、販売した「こけし手ぬぐい」が好評でした。型染め体験では、オリジナルのブックカバーとポストカードづくりを楽しまれました。「遊びのデザイン」では、学生が考案・制作したゲームをお客様が二度三度と夢中になって遊ぶ姿が見られ、2日間遊びに来られた方もいました。



共通教育センター  
教職課程センター

〔企画1液体窒素体験〕液体窒素を用いた、超伝導コースターのデモンストレーションやバナナを凍らせる定番の実験に、子どもから大人まで目を輝かせる、とてもにぎやかな企画となりました。〔企画2クイズ大会〕参加した方の人数が予想以上に多く、初日が終わってから、プレゼントを買い足す事態に。〔教職課程センター紹介〕工大生の教育職員免許取得情報を、高校生の皆さんが興味深そうに聞いていました。



知能エレクトロニクス学科

第3回電気・電子テクノフォーラム開催報告

なかやま ひでひさ  
中山 英久 知能エレクトロニクス学科 准教授

本学科は、29年度より「電気電子工学科」へ改称し、電子機械・ロボット分野、医工学・バイオ分野、光・情報デバイス分野の3つの分野を持続的に発展させます。今回のテクノフォーラムは「私たちの生活を支える電気電子工学」と題し、主企画として、10月15日(土)・16日(日)の両日にわたり、ミニ模擬授業を行いました。各分野の先生による、最先端技術の紹介および所属学生による研究発表は、用意した座席が足りなくなるほど多くの人にご参加いただきました。また、研究のデモ展示、Raspberry Pi プログラミング教室、ドローンの飛行体験やEVカートの試走体験という関連企画を通じて、「電気電子工学」を体感していただきました。高校生から小学生まで、幅広い年齢層の方に多数ご来場いただき、各企画の評判も大変良く、好評でした。



2日目のミニ模擬授業

入試広報課

第3回オープンキャンパスを開催

本学八木山キャンパスにおいて10月15日(土)、16日(日)の両日、第3回オープンキャンパスが「工大祭」と同時開催されました。

秋晴れのもと、県内外から高校生や保護者の方に両日合わせて、199名ご来場いただきました。

来場者は「工大ふれあい博」の展示や体験企画で各学科について触れ、学生や学科が出店する屋台・ご当地グルメでお腹を満たしていました。

また、入試相談コーナーにも多くの高校生や保護者が訪れ、熱心に質問をしていました。

野外ステージイベントでは、チアリーダー部やダンスサークルが

会場を盛り上げるなど、学業以外での生き生きとした学生の姿を通して、キャンパスライフをイメージできる機会となったのではないのでしょうか。



オープンキャンパス案内

教務学生課

平成28年度 後援会主催大学見学会

第41回工大祭に合わせ、10月15日(土)・16日(日)に後援会の大学見学会が行われました。15日(土)は、青森、秋田、岩手、山形、福島、新潟の各県支部のご父母および役員の方176名、16日(日)には宮城県内のご父母および役員の方137名が本学八木山キャンパスを訪れました。

見学会の前に大学祭実行委員長から、今年の工大祭のテーマや企画についての説明と、自身が大学のサークル活動で得た経験談などが語られ、ご父母の皆さまは真剣に耳を傾けていました。

見学会では、日頃ご子息が学生生活を送っているキャンパスを見学し、学科企画やサークル展示、屋台など、趣向を凝らした催しを通して、学生たちの活気あふれる姿を見ていただきました。



工大祭についての説明会



### 第31回北海道科学大学との定期戦対戦成績報告

みずの ふみお  
**水野 文雄**

学生委員会副委員長  
知能エレクトロニクス学科 准教授

北海道科学大学との総合定期戦が8月23日(火)・24日(水)に、北海道科学大学を会場として開催されました。28年度は、8月22日(月)に上陸した台風9号の影響で、総合定期戦の開催が危ぶまれましたが、両大学の実行委員や教職員の献身的な対応と準備のおかげで開催することができました。

本学からは学生、教職員、指導者を合わせ260名が参加し、全12種目の競技が実施されました。各クラブは勝利を目指し一丸となって頑張ったのですが、残念ながら総合成績1勝11敗で総合優勝を逃してしまいました。なお、両大学の学生は競技以外にもさまざまな交流を通じて、絆を深めていました。29年度は、優勝旗を奪還できるよう各クラブの頑張りに期待します。



### 第31回総合定期戦を終えて

はやし みずき  
**林 瑞紀**

課外活動連合委員会  
事務局長  
建築学科 3年

今年の定期戦は、台風に見舞われ開催が危ぶまれましたが、大会関係者や旅行会社の方のおかげで、無事に全ての競技を開催することができました。

また、私たちが北海道科学大学のキャンパスに到着した際に、多くの学生が手を振って温かく歓迎してくれたことが印象的でした。

総合成績を見ると私たちには後がありません。しかし競技ごとの試合経過を見ると勝てそうな試合もありました。

来年こそはさらに練習を重ね、総合優勝することを切に願っております。



### 第31回総合定期戦を終えて

かわむら しょう  
**川村 翔**

学部学生会 会長  
都市マネジメント学科  
3年

第31回総合定期戦の成功は、両大学の学生、教職員の尽力のおかげであると思います。この場をお借りして感謝申し上げます。

前日までの台風の影響が懸念されましたが、試合当日は晴天に恵まれ、絶好のコンディションで行うことができました。結果としては、今年も総合優勝を逃してしまいました。東北工業大学は何年も総合優勝をできていません。来年は本学で総合定期戦が行われるので、総合優勝できることを願っています。

### 第31回北海道科学大学・東北工業大学総合定期戦報告

種目	東北工業大学	対	北海道科学大学
サッカー	○	4 - 1	●
ラグビーフットボール	実施せず		
ソフトテニス	●	2 - 3	○
硬式テニス	●	1 - 4	○
バスケットボール	●	71 - 90	○
剣道	●	2 - 5	○
柔道	●	2 - 3 (2引分)	○
アメリカンフットボール	●	13 - 21	○
バレーボール	●	0 - 3	○
ハンドボール	●	20 - 22	○
弓道	●	88 - 107	○
バドミントン	●	1 - 4	○
卓球	●	0 - 7	○

参加者数 教職員 20名、指導者 6名、  
学生 234名  
合計 260名  
日程 平成28年8月23日(火)・24日(水)  
場所 北海道科学大学  
結果 成績 東北工業大学 1勝  
北海道科学大学 11勝  
総合優勝 北海道科学大学

### 第42回千葉工業大学硬式野球部定期戦

千葉工業大学との第42回硬式野球部定期戦が、8月16日(火)に千葉工業大学野球場を会場に行われました。

序盤に相手打線の猛攻を浴び、先制点を奪われてしまいました。その後は、後半まで両チーム譲らない戦いが続きましたが、8回に貞島光浩(安全安心生活デザイン学科1年)の3塁打と、相手投手の乱れなどにより2点を、さらに9回で追加得点を奪うことに成功し、1点差に詰め寄りましたが、惜しくも3-4で敗れてしまいました。

ここ数年は定期戦で負けてしまっているため、来年こそは勝利を挙げたいと思います。



なかむら ともか  
**中村 友香**

経営コミュニケーション  
学科 3年



### 第42回千葉工業大学・東北工業大学定期戦(硬式野球)

日程 平成28年8月16日(火)  
場所 千葉工業大学 野球場  
結果 東北工業大学 3 - 4 千葉工業大学  
参加者 小幡早苗監督、須藤将仁コーチ、部員 50名



### 工大カップ 2016 卓球大会

さとう ゆうさく  
佐藤 佑咲

知能エレクトロニクス学科 3年

学生自主企画「工大カップ」は、卓球部の学生9名が主体となって運営や企画をし、高校生や地域の方と卓球を通して交流を深めることを目的としています。

今回は、本学の近隣の高校生に限定した大会を開きました。参加校は、4校で顧問の先生を含め34名の方に参加していただきました。

年末には、地域の方も含めた忘年卓球大会を開催します。

さらに、参加人数を増やし年々知名度を上げるように活動していきたいと思います。

皆さまには、ぜひご参加いただければ幸いです。



### 260年前の民家で 竹灯籠イルミネーション

みと ゆうき  
水戸 佑紀

MSKWG代表  
建築学科 3年

本企画は、建築学科の1~4年生の約30名により、古民家を利活用し、里山の景観を守り伝えるというものです。民家の活用を通して、今後の歴史的民家の保全などについて模索し、これらの活動が将来のまちづくりに発展していければと思います。

本企画は、名取市にある国指定重要文化財洞口水住宅を会場に開催しました。竹灯籠は、地元の里山から、12mを超える竹を伐り出し、節ごとに灯籠へと作り上げていきました。最終的に30本の竹から約1,000個の竹灯籠ができ上がりました。

9月17日(土)のイベント当日は、敷地いっぱい竹灯籠を並べ、学生はもちろんのこと、来訪した一般の方にも、幻想的な光景を楽しんでいただきました。普段の民家とは異なった光景を演出でき、小さな作業から大きな感動を得られた本企画は良い経験となりました。



竹の切り出し作業



竹灯籠に明りが灯り、幻想的に

### 奨学生紹介

#### 平成28年度 公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金

公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金奨学生について、本学からは選考の結果、学部・大学院合わせて5名の学生が奨学生として採用されました。今後の活躍を期待しています。



おおたけ つかさ  
大竹 司真

都市マネジメント学科  
3年

好きな言葉  
なるようになる



ふじもと えいすけ  
藤本 英介

経営コミュニケーション学科  
3年

好きな言葉  
質実剛健



かわい なお  
川井 直

工学研究科 建築学専攻  
博士(前期)課程 1年

好きな言葉  
継続は力なり



さわいし りょう  
澤石 諒

工学研究科 環境情報工学専攻  
博士(前期)課程 1年

好きな言葉  
適度が一番



さとう たかひろ  
佐藤 隆博

ライフデザイン学研究科  
デザイン工学専攻  
博士(前期)課程 1年

好きな言葉  
温故知新  
「恩故値新」昔の事に恩徳を思い感謝し、そこから新しい価値を導くこと。

#### 平成28年度 郵政福祉教育振興基金奨学生

選ばれた皆さんのさらなる活躍を期待しています。



なりた けんた  
成田 研人

知能エレクトロニクス学科  
3年

好きな言葉  
失敗を恐れず挑戦



きむら たいき  
木村 太紀

建築学科  
4年

好きな言葉  
質実剛健

# 4年生・修士2年生対象 学内合同企業説明会開催



まつだ まさひろ  
**松田 勝敏**

就職委員会副委員長  
情報通信工学科 准教授

「2017年3月卒業東北工業大学学生のための学内合同企業説明会」が、9月13日(火)の午後に、開催されました。今回初めて長町キャンパスが会場となり、本学の学生を積極的に採用していただいている35の企業にご参加いただきました。例年の説明会では、参加企業の内定につながった学生もいるなど、直接、企業の方と話ができる説明会は、多くの学生の内定獲得につながっています。

本学は文部科学省の「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成(COC+)」に参加しています。今回の説明会では、当該事業に関連する企業のブースを設置しました。コーディネーターが常駐し、企業と学生の間で助言などのサポートを行いました。



本学の就職支援の一環として、学生にとって有意義なイベントとなりました。

本学の就職支援の一環として、学生にとって有意義なイベントとなりました。

## インターンシップ



### 実習の重要性

たかはし しゅうき  
**高橋 柗葵**

建築学科 3年  
実習先：株式会社フジタ  
東北支店

今回のインターンシップでは、建設現場で施工管理の実習を3日間行いました。コンクリートの流動性を測定するスランプ試験、配筋の組み方など、大学の講義で学んできた知識が、建設現場では実際にどう使われているのかを知ることができました。

また、企業の方や現場で作業をしている職人の方から、貴重なお話を伺うことができ、就職活動へのモチベーションの向上にも繋がりました。

インターンシップに参加したことで、その職種に対する理解度が深まり、働くことの意義も明確になりました。今後、インターンシップに参加することを迷っている学生は、ぜひ参加されることをお勧めします。



### 実習を終えて

まつだいら なお  
**松平 菜織**

クリエイティブデザイン学科 3年  
実習先：グレースティ株式会社  
ウィンスタジオス

3週間のインターンシップに参加し、模擬CMの制作に取り組みました。映像制作は初めての経験でしたが普段と同じように、対象へ何を伝えれば効果的か、どう伝えれば伝わるのかなど、相手の立場で考えることが要点となり、それらを決める企画の重要性を痛感しました。グループ制作ということでイメージ共有に苦戦し、社員の方からはさまざまなアドバイスをいただきましたが、そこで改めて社会人と学生の違いを感じ、自分に足りないものを明確にすることができました。学生としての時間は残りわずかですが、有効に使い自分の能力を高めていきたいと思えます。



## スケジュール

日程	行事
5月19日・20日	説明会
6月12日	エントリーシート提出期限
6月中旬～7月上旬	マッチング
7月20日・21日	事前研修会
夏季休業期間	インターンシップ実施
10月11日	報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

### 参加人数 (平成28年度) (単位：人)

工学部	1年生	2年生	3年生	4年生
知能エレクトロニクス学科		1	3	
情報通信工学科			20	
建築学科		1	22	
都市マネジメント学科			10	
環境エネルギー学科			4	
合計		2	59	

ライフデザイン学部	1年生	2年生	3年生	4年生
クリエイティブデザイン学科		1	45	
安全安心生活デザイン学科		2	3	
経営コミュニケーション学科		1	7	
合計		4	55	

# 宇宙は磁場が肝です！情報通信工学で宇宙科学に挑もう

工学部 情報通信工学科

中川 朋子 研究室 (NAKAGAWA Tomoko Laboratory)

本研究室では、情報通信工学科で学んだ電磁波の知識や情報処理能力を生かして、月周回衛星「かぐや」や磁気圏探査衛星「ジオテイル」などによって宇宙空間で得られたデータの解析や、それに関連したコンピュータシミュレーションなどを行っています。また、野外に設置した磁力計によって、地磁気変動の観測も行っています。太陽風の影響で変形した惑星磁気圏の振動や、雷によって起こる電離層の共振など、さまざまな磁場変動の研究をすることができます。今後打ち上げ予定の水星探査機計画にも参画しています。



## 学生へのメッセージ

既存の知識を習うだけではなく、新しい知識を生み出していくのが大学です。中学・高校や専門学校などとは、この点が決定的に違います。

1、2年生のうちには授業が中心でピンと来ないかもしれません。大学の醍醐味は4年次の卒業研修（と大学院）にあります。未踏の分野に踏み込むのです。本研究室で取り組んでいるのは地球や宇宙の自然現象ですが、自然は、相手が学生だろうと手加減してくれません。本で調べても答えは書いてありません（書いてあったら新しいので研究になりません）。答えのない問題を解決していく道筋は一つではなく、仮説を立てては失敗し、違う方法を試してはやり直します。よく考えた方法で迫った人だけに、自然は本当の姿を見せてくれます。そして答えのない問題に取り組んでいけることこそ、社会で求められる力ではないでしょうか。



セミナーで進捗状況をプレゼンテーションします



ソフトウェアも自作し解析します



磁力計の野外設置（東北大学惑星プラズマ・大気研究センター川渡観測所）



4年生が3年生を指導しています

## 学生の声



すがた よしき  
菅田 義輝

工学部 情報通信工学科  
4年

私は月周回衛星かぐやが取得した月の磁場データの研究を行っています。特に太陽風が与える月の磁場変動への影響を把握すべく、日々研究に取り組んでいます。

月に一度、進捗状況の報告を行っていますが、中川朋子先生と研究室メンバーから質問や感想をもらえるため、次に取り組むべき課題を見つけやすくなり、研究を円滑に進めることができます。

中川朋子先生と研究室メンバー間も交友的で、居心地の良い空間で研究に取り組むことができます。



たかてら ひさと  
高寺 寿門

工学部 情報通信工学科  
4年

私は月探査衛星かぐやが観測した月面の磁場データを用いて、磁場のベクトルを3Dで表示するソフトウェアの開発を、研究として行っています。月面の磁場に関わる研究に実際に使えるような性能、使いやすさにすべく日々開発を行っています。研究室内では、定期的に研究の進捗報告をメンバー間で発表することで、他メンバーの研究に触れたり、自分の研究の問題点に気付く機会があり、今後の論文作成に向けて良い刺激となります。



みやけ しんや  
宮家 紳也

工学部 情報通信工学科  
4年

私が所属している中川朋子研究室のゼミでは、地球の磁場変動について研究しています。中川朋子先生のご指導もあり、順調に進めることができます。研究室のメンバーは、中川朋子先生の丁寧な就職活動のアドバイスのおかげもあり、無事に内々定をいただくことができました。

私は大学を卒業した後、保険システムの設計・開発に取り組んでいく予定です。多くの方が利用する保険のシステム開発に携わることで、社会に貢献していきたいと考えています。

教室では語られない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

数学は  
生活の役に立つか



さとう みつお  
佐藤 光男

情報通信工学科 教授

大学の授業では、数学は最も重要な基礎科目の1つであることは言うまでもありません。理工系科目のほとんどは、数学の知識なしでは理解が困難です。しかし、授業を離れた日常生活では、数学なんて何の役に立つのだろうと思っはいませんか。確かに、普段の生活では代数や微分などの問題を解くことは、まずありません。このように数学の知識が直接生活に役立つことは少ないのですが、数学の授業を通して、いつの間にか身に付く数学的思考方は、多方面で役立ちます。卒業したら問題の解き方は忘れても、数学的思考方は忘れないで欲しいと思います。

心と体にも  
定期的に充電して…



まつかわ ただし  
松川 忠司

環境エネルギー学科 助手

私は現場で地震被害の調査・観測と、地震観測に携わってきました。現場では電気が使えないので、液漏れやショートしないように注意を払って、自動車用12Vバッテリーの電源で観測していた時もありました。一方、大地震には停電がつきものですが、地震観測はバックアップバッテリーに切り替わり、継続される仕組みになっています。現場観測、地震観測とも電源が途絶えてしまえばお手上げで、事前のバッテリー充電がとても重要になります。学生の皆さんも、スマホや携帯電話だけでなく、心と体にも定期的に充電してエネルギーを蓄え、リフレッシュすることを忘れないで、毎日を大切に過してください。

コミュニケーション  
能力



こやま しゅうたろう  
古山 周太郎

安全安心生活デザイン学科 准教授

私のゼミは、福祉コミュニティデザインを研究テーマとしています。コミュニティを調査対象とするので、ゼミの学生は、高齢者や障害を持つ方などとお会う機会が少なくありません。学生は、初めは接し方に戸惑いますが、やがて一緒にいることに慣れて話をしはじめます。

日々の暮らしで大変なことや楽しいこと、地域への想いに真剣に耳を傾けます。相手の目をみて思いを汲み取り、感じたこと考えたことを伝える、そんな学生の姿をみると、本当のコミュニケーション能力は、このような機会から培われていくのだ、と常々思うのです。



教員室にて



手前3個が12Vバッテリー (遠か昔)



ワークショップの後の学生たち



研究室にて



交流も使える便利なポータブル電源 (数年前)



高齢者カフェでの音楽会

# 泰日工業大学学祭参加報告



## 泰日工業大学 大学祭に参加して

みずの 水野 文雄 国際交流委員会幹事会 幹事 知能エレクトロニクス学科 准教授

泰日工業大学 (TNI) で8月5日 (金) に開催された泰日工業大学大学祭に、本学から9名の学生が参加しました。参加した学生は、パネル展示、ステージでのパフォーマンス、さらに屋台の出展を行いました。

パネル展示では、研究内容、日本のお菓子や仙台の紹介を行いました。ステージ企画では、自己紹介、大学と宮城県の紹介を行い、その後、「よっちょれ\*」、日本の歌を皆で歌うなどのパフォーマンスを披露しました。屋台では、白玉団子と緑茶の販売を行い、白玉団子は100食以上用意したのですが、完売するなど盛況でした。屋台、パネル、ステージについては、TNIの学生の惜しみない協力もあり、やり遂げることができました。参加学生にとってTNIの学生と協力して大学祭で活動したことは、良い経験になったと思います。

\*「よっちょれ」；「寄りなさい」、「どきなさい」の意で、北海道のよさこいソーラン。



ステージでのパフォーマンス



「しらたま」屋台の出展

## サマープログラムに参加して

### タイ王国という国

さとう 佐藤 たくま 匠真 建築学科 3年



私は泰日工業大学 (TNI) のサマープログラムに参加して、2点ほど印象に残ったことがありました。1点目は日本とは違った礼儀を持っていて、サワディーカッ (どうも) と言うと誰でも笑顔で合掌してくれます。これが「微笑みの国タイ」と言われる所以だと思います。2点目は多くの日系企業がタイに進出していますが、タイ人にとって国内の海外企業で働くことにより、有意義な社会生活を送ることができます。タイは、まだまだ発展途上にあり、海外の企業招致も積極的です。笑顔に溢れたタイは、他国に愛される国になると思います。

### 私がタイで学んだこと

かんの 菅野 はやと 勇人 経営コミュニケーション学科 2年



私は、8月25日 (木) から12日間タイへ留学しました。留学当初は、日本では見ることのない光景ばかりで、衝撃を受けました。タイの文化や歴史を肌で感じることで、タイの政治や社会問題にもっと目を向けようと思いました。それはすべてが美しいことばかりではないのです。互いの文化を照らし合わせることで、日本人とタイ人の価値観の違いに気づくことができました。泰日工業大学の学生と小学校訪問などを通して、たくさんの友だちができました。タイの学生は、私たちを家族のように受け入れてくれました。国境を越えて友だちを作る感動と素晴らしさを経験して、人との出会いとつながりを大切にしようと思いました。限られた時間の中で貴重な経験をし、これからは、留学などを通してさらに異文化に触れていきたいと思っています。

## 中原大学への短期留学生からの抱負



### 留学経験を今後の学びの糧に 石井 敏 建築学科 学科長 教授

本学との国際交流協定に基づく中原大学 (台湾) との交流は2009年度からはじまりました。特に建築学科学生の短期留学派遣は8年連続で、今回の2名を含めると計19名が派遣されています。2013年度以降は、中原大学から本学科への留学生派遣も開始され、昨年の4名に続いて今年は11月から3名の受入を予定しています。両学・両学科間の交流が安定し、充実してきたことを強く感じます。今回留学する2名の学生には、台湾の建築や暮らしを学び、自分を見つめ、そして日本の歴史や文化、そして建築を見つめ直す貴重な体験・機会となることを期待しています。

### 会話して吸収する台湾留学

かみやま 神山 まさや 将哉 建築学科 4年



今回、中原大学に短期留学をすることになり、最初に中原大学の学生と交流し、高いレベルの設計を前にして、議論を交したいと思います。そうすることで、自分の語学力を向上させるとともに建築設計力も向上させたいです。

また、私はシェアリングやライフデザイン、アルゴリズムックデザインに興味があり、それらのテーマを持ったプロジェクトや作品を中原大学で見つけて、積極的に吸収していきたいと考えています。

台湾へはなかなか行けないので、現地の学生しか知らないスポットを聞いて、観光もしてみたいと思っています。

### 異文化に触れて

さとう 佐藤 つよし 毅 建築学科 4年



私にとって、建築に対する興味は、建築が建物単体を対象とするだけでなく、都市も含めた生活をどれだけ豊かなものにしていくことにあります。

今回の留学を通して、文化の違いによってどのような都市のあり方や、生活があるのかを実際に感じることで、今後の建築を考えていく上での機会としたいと思っています。

また、中原大学の学生と建築や設計を通して交流し、多くの議論を重ね、それによって、語学力の向上や建築設計力の向上を図りたいと考えています。

# 地域連携センターだより

## ■平成27年度地域産学連携プロジェクト研究成果展示会

一番町ロビー1階ギャラリーにおいて、8月5日（金）～10日（水）に平成27年度に実施をした、地域産学連携プロジェクト研究の研究成果展示会を開催しました。

地域連携センターで採択をした、実用化開発・試験研究と仙台市のまちづくりや地域連携協定を目的とした、18テーマのプロジェクト研究について、研究パネルならびに研究成果品を展示しました。

市民の方に、本学における研究内容を広報する、良い機会となりました。展示期間中に来場者の方から、製品化したものについて、使用する側としてのご

意見をいただくなど、研究者へフィードバックして参考になることもありました。

今後もこのような展示会を開催することで、さらに本学の研究に興味を持っていただけることと思います。



製品を使う側の市民の方からご意見をいただく貴重な機会になりました



パネルだけではなく、研究成果品を実際に見てもう良い機会になりました

## ■第64回Tohtechサロン開催

一番町ロビー2階ホールにて、9月13日（火）に第64回Tohtechサロンを開催しました。

「6脚クローラ型不整地移動ロボットの開発～災害現場などで作業可能なロボットを目指して」というタイトルにて、知能エレクトロニクス学科藤田豊己教授ならびに大学院博士（前期）課程1年佐々木大雅さんが講演を行いました。

研究テーマがロボット研究ということ、災害対応が目的ということもあり、来場者には企業の方が多く、質疑応答でも専門的な質問を受け、実質的な議論の場となり、講演者や来場者にとっても実りあるセミナーとなりました。アンケートには、第2回を望む声もありました。



藤田豊己教授による講演



大学院博士（前期）課程1年の佐々木大雅さんによる講演



聴講者からの質問は鋭いものがありました

## ■熊本県伝統工芸館との共催で熊本工芸支援展を開催

本学一番町ロビーにおいて、本学と熊本県伝統工芸館の共催で10月14日（金）から19日（水）まで、熊本の工芸支援展「がんばるけん！くまもとけん！」を開催いたしました。本学は、東日本大震災で被災した工芸産地支援をきっかけに、また、日本の工業デザイナーの草分けである秋岡芳夫氏（熊本県出身、元工業意匠学科長）との繋がりがあり、熊本県伝統工芸館と連携協力の協定を平成26年に結びました。これまでに、相互の工芸産地の振興を図るため、各種活動を行ってきました。この度、熊本地震において工房が被災した熊本の工芸家の方もいることから、支援の一環として開催に至りました。開催初日は、マスコミ報道も多く、延べ300名を超える入場者がありました。

また、14日（金）には、一番町ロビー2Fで熊本県伝統工芸館 佐藤伸之館長より、「熊本の工芸と震災の現状」を語る！をテーマに講演が開催されました。



工芸品の展示

## ■イノベーションジャパン (大学見本市) 2016に出展参加

国内最大規模の大学見本市である「イノベーションジャパン 2016」が、平成28年8月25日(木)・26日(金)に東京ビックサイトにおいて、開催されました。

本学からは、知能エレクトロニクス学科鈴木郁郎准教授が、ライフサイエンス部門に出展しました。

このイベントは、大学と産学連携のマッチングを希望する企業が多数来場し、会場は盛況となりました。鈴木郁郎准教授のブースにも多くの企業や研究機関の関係者が訪れ、交流ができたことは今後の研究開発や産学連携活動に活かされることと思われま

す。今回の展示会には、大学院博士(前期)課程2年 佐々木陽良さんも研究ブース担当者として参加し、日頃の研究成果について来場者に説明するなど、今後の研究開発へのステップアップとなる2日間でした。



国立研究開発法人科学技術振興機構主催による産学マッチングイベントです



来場者に研究内容を説明する鈴木郁郎研究室の大学院博士(前期)課程2年佐々木陽良さん

## ■向山児童館との多世代交流事業イベント

向山児童館との多世代交流事業として、子供たちに手を使った遊びを通じたものづくり体験、「児童館の新しい看板つくろう」事業を8月～10月にかけて3回行いました。本学長町キャンパスにおいて、8月10日(水)と9月24日(土)の2回の製作作業を行い、10月29日(土)には、向山児童館にて看板のお披露目セレモニーを行いました。2回の看板製作では、安全安心生活デザイン学科菊地良覺教授、伊藤美由紀准教授と学生の指導のもと、木工場の齋藤英樹技術員、金属工場の萩原陵技術員の協力も得て、看板に取り付ける木製の文字パーツに色を塗る作業を行いました。初めての大学校舎での体験に、子供たちは大興奮で、保護者とともに、ヤギとのふれあいもあり親子で楽しんだ一日となり、看板は明るい色の素敵な仕上がりになりました。

地域内の相互協力事業として、良い機会となりました。



菊地良覺教授の説明を真剣に聞く子どもたち



向山児童館でのセレモニー全員で、飾りの雄勝石キーホルダーを付けています

## ■第11回「秋の八木山フェスタ」が開催されました

今年で11回目を迎えた「八木山フェスタ」が、11月5日(土)に八木山市民センターにおいて開催されました。

昨年度のイベント企画に、新たに知能エレクトロニクス学科による「たのしいロボットランド」、ピアサポーター製作「LEGOで作る仙台市地下鉄東西線車両・ホーム」の模型展示が加わり、会場がさらに賑やかになりました。

他に八木山市民センター2階・3階では、本学の学生、教職員がものづくり体験、展示と多様にわたる企画イベントを行いました。

当日は、好天に恵まれ各イベントへの参加者合計が900名を超え、多くの家族連れが興味のあるイベントを楽しまれ、好評を得ることができました。



各種イベント



## ◆学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2016への出展

やまだ まさき  
山田 真幸 都市マネジメント学科 准教授

小学校の夏休みがはじまった7月17日(日)、東北大学の教室で行われた「サイエンス・デイ」の本学の出展では、小学生から大人まで多くの方々に楽しんでいただきました。

橋のペーパークラフトを作って、完成したら載荷試験をしてみるといったシンプルな内容でしたが、盛況となり、スタッフは昼食を取る時間ありませんでした。

完成品におもりが乗った時の参加者の驚きの表情と笑顔は印象的で、とても大変でしたが充実した出展となりました。

平成28年度は、2回目の出展にもかかわらず「人と社会と地球のために賞」を受賞することができました。

これを機に、土木技術や科学に興味を持っていただければ幸いです。



ドボクを体験 つよいぜ！！紙で橋をつくってみよう

## ◆本学ヤギプロジェクトと奥山恵美子仙台市長のつどい

本学ヤギプロジェクトの学生とのつどいのため、奥山恵美子仙台市長が10月14日(金)、本学長町キャンパスを訪れました。

「市長と地域のつどい」は、奥山恵美子市長自らが地域に出向いて、さまざまな活動団体と懇談し、その中で出された意見や提案などを、これからのまちづくりの参考にすることを目的に開催している活動です。

学生と奥山恵美子市長は、ヤギ小屋の前で3頭のヤギに餌やりをし、触れ合いを楽しんだ後、学生による、ヤギプロジェクトの活動内容の紹介や、除草などについての説明を受け、和やかな雰囲気の中、懇談が行われました。



奥山恵美子市長と本学ヤギプロジェクト学生



ヤギとのふれあい

## ◆第1回まちなか博物館講座が開催されました

本学と仙台市博物館講座が共催して、第1回まちなか博物館講座が、10月9日(日)一番町ロビーで開催されました。

28年8月に仙台市博物館と覚書を交わし、年2回を目途に、仙台市博物館の学芸員が歴史、美術、文化について一番町ロビーを会場として講座を開催することとなりました。

今回、講座の前に、石川善美副学長(広報委員長)から開催の挨拶があり、記念すべき第1回の講座は「水墨画の魅力ー雪舟・武蔵・玉堂」と題し、仙台市博物館 学芸員の寺澤慎吾氏が開催中の博物館特別展の内容に関する講演を行いました。

会場には、市民80名の参加があり、水墨画についての解説や、宮本武蔵に関するエピソードなどについての話を、興味深く聞いていました。



博物館講座

## ◆「塩竈あたまっこかきプロジェクト」始動!

さとう 飛鳥 経営コミュニケーション学科 准教授

塩竈の株式会社海の子Net.と新プロジェクトを開始しました。松島湾・浦戸諸島で獲れる海産物(牡蠣、アカモク、ホヤ、ワカメ、藻塩など)の効果的なWEB販売のためのマーケティング提案と、松島湾の新特産物「あたまっこかき」(海底に竹竿を刺す養殖法で、干潮時に海面から牡蠣が出るために危機を感じて栄養を貯め込むため、貝殻も小ぶりで丸く白くて美しく、旨味ははるかに凝縮されたぶりつりの牡蠣)の海外展開を視野に入れたブランディング(名前変更など)を行います。養殖方法、生産者や販売者、商工会議所の協力の様子を撮影し、近日中に編集して学科・研究室サイトにアップ予定です。

学科Facebook : <https://www.facebook.com/tohtech.mc>

桂島で生産現場を見学 : [https://www.youtube.com/watch?v=UXL9bSD\\_HxQ](https://www.youtube.com/watch?v=UXL9bSD_HxQ)



あたまっこかきは小ぶりだが美しく濃厚な味



あたまっこかき養殖場、海面ギリギリに牡蠣棚を設置して干上がる時間を作る

## ◆第4回 親子ブーメラン教室開催

こいわい ひるのり  
小祝 慶紀 経営コミュニケーション学科 教授

今年も「親子ブーメラン教室」を宮城県ブーメラン協会との共催で、本学一番町ロビーにおいて、8月19日(金)~21日(日)までの3日間、開催しました。今年で4回目となる教室ですが、今回は、3日間で60名の方の参加がありました。

「偶然通りかかった」親子や「新学期のネタを探しにきた」小学校の先生など、参加理由はさまざまですが、その中に「毎年楽しみしている」という親子が何組かいらっしゃいました。主催者としては嬉しい限りです。参加者のなかには、「SNS」で拡散してくださった方もいました。今回は、「なぜ、ブーメランは戻るのか。」という疑問により分かりやすく答えるため、地球ゴマも用意しました。また来年の開催が楽しみです。



ブーメランキットを製作中の子供たち

## ◆JAGDAポスターコンペに入賞しました

しのはら りょうた  
篠原 良太 クリエイティブデザイン学科 教授

クリエイティブデザイン学科ビジュアルデザインコース3年生の実習課題で制作したポスター作品が、日本グラフィックデザイナー協会主催のポスターコンペティション「JAGDA学生グランプリ2016」にて受賞・入選(審査員賞1名・入選4名)しました。

今回の課題は、「SNS」をテーマに学生それぞれが考えるメッセージを、B1サイズのポスターに写真やイラストレーション、タイポグラフィーなどさまざまな手法を用いて表現するものです。普段、使い慣れた「SNS」というサービスを、視点を変えてメッセージ化するという行為を通して、ポスター制作の難しさや面白さが理解できたのではと思います。



審査員賞を受賞した鎌田青さんの作品と授賞式会場

安全安心生活デザイン学科 **伊藤 美由紀** 准教授

安全安心生活デザイン学科

**菊地 良覚** 教授 **ご紹介**



## 介護・看護を活かし、人に寄り添う実践的デザインを追求

看護の教育研究の世界から本学に着任した伊藤美由紀 准教授は、一言でいえば「実践を通して問題解決する」方です。前任地（東北大学病院）で培った緊急時対応する能力の持ち主であることは確かで、東日本大震災時の仮設住宅居住者支援や仙台八木山防災連絡会の幹事も現在は担い、学生への実践的な参画を促し、学生個々の将来に役立つ教育を、目指しております。まさに実学の中で組み立てるデザインの世界に共通しており、安全で安心な暮らしの実現教育を目指す、当学科に相応しい人物と言えます。現在は、がん患者を支援する「ホッとサロンin仙台」代表も務め、本学の学生委員会副委員長、共同研究者などの役職を担うマルチ型の方で、今後の奮闘を多に期待したい人物です。



「せんだい防災のひろば2016」で八木山地域の方とほうさいダンスを披露

## topics

### 「東北工大 Live 講義 2016」開催

#### 入試広報課

本学八木山キャンパスを会場に、9月10日(土)、「東北工大Live 講義2016」が開催されました。はじめに、AOVA入試、そして公募制推薦入試を中心に、本学の入試制度について説明を行いました。その後、午前4講義、午後4講義の計8講義が行われ、多くの高校生が熱心に講義を受けました。また、午前の講義と午後の講義の間に「小論文・面接対策講座」を開催しました。AOVA入試や公募制推薦入試における小論文の書き方、面接の心構えなどについて解説をし、入試シーズン本番を控えた受験生は、真剣に耳を傾けていました。「授業のイメージをつかめた」「進学意欲が高まった」などの感想が寄せられ、このイベントを通して本学の雰囲気を感じ取ったようでした。



### 七夕まつりへの参加

**篠原 良太** クリエイティブデザイン学科 教授

今年度の七夕飾り制作は、クリエイティブデザイン学科2年の半澤宏和さんを中心に5月末からデザイン案の検討・制作がスタートしました。デザインのテーマは「まつり・花火」で、吹き流しの部分に夜空に花火が上がる様子が表現されています。制作メンバー33名が授業の合間や終了後に、チームワークよく制作する様子がかがえました。



今回の作品は平成28年度仙台七夕飾り個人賞(仙台七夕まつり協賛会)において、銀賞を受賞しました。担当した学生諸君にとって、今後の制作活動のモチベーションにつながったのではないかと思います。

## column

もりた けんいち **森田 健一** ウェルネスセンター カウンセラー 准教授

### 「心理療法」とは：言葉にし、物語を紡ぐ



カウンセリングの主な行為は、「話す」ことです。うまく話せるかどうかは問題ではなく(むしろ苦手な人がほとんどです)、言葉にするという行為に意味があります。

人が悩むとき、漠然とした「嫌な感じ」に包まれる状態になります。なんとなくうまくいかない気分や他者への全般的な不信感など、それは「空気」のように自分の周りに漂うのです。よくアドバイスされるように、「気晴らし」に何か運動などをして気分が回復できるような人は、その「空気」を入れ替える術にたけているのです。

しかし、気晴らしすらしんどい人もいます。何もやる気になれない。そういう人は、漠然と包まれている「空気」を少しずつ言葉に換えていくことが第一歩です。何が不安でどうなることを恐れているのか。そしてそれに対して何ができるのか。言葉にするということは気持ちを外に出すということ、つまり内にあつたものを第三者視点から見られるようになります(文字で書くとわかりやすい)。その瞬間だけは包まれていた「嫌な空気」の外に一歩出ることができると、新鮮な呼吸の下そこから抜け出すための方法を考えることができます。

言葉とはそもそも現象に形を与える機能を持ちます。自分とは違う空気を吸う第三者の専門家とともに、自分自身の状況、人生史などを言葉にしていく作業がカウンセリングであり、その言葉をもとに「これからの私の生き方」を物語として紡いでいくのが「心理療法」なのです。

## 今後の行事予定(平成28年度)

**12月**

- 3日(土) 後期補講日①
- 10日(土) 後期補講日②
- 26日(月) 冬季休業開始 (~1/4(水)まで)
- 25日(水) 定期試験時間割発表
- 31日(火) 後期補講日③ 後期授業終了

平成29年 **1月**

**2月**

- 1日(水) 後期定期試験①
- 2日(木) 後期定期試験②
- 3日(金) 後期定期試験③
- 17日(金) 後期成績発表 追再試験時間割発表

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

〒982-8577  
宮城県仙台市太白区  
八木山香澄町35番1号  
東北工業大学 入試広報課  
TEL : 022-305-3144  
FAX : 022-228-1813  
E-mail : kouhou@tohotech.ac.jp